

topic
1

篠原先生が本学学長に就任されました



- 1958 千葉県東金市生まれ
- 1981 日本女子大学住居学科卒業
- 1983 日本女子大学大学院修了
- 1983-85 香山アトリエ
- 1986 空間研究所設立
- 1997 日本女子大学住居学科専任講師就任
- 2001 日本女子大学住居学科助教授
- 2010- 日本女子大学住居学科教授
- 2013-15 日本建築学会建築雑誌 編集長
- 2020 日本女子大学 学長就任

学生へのメッセージ

私たちは今、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、これまでとは全く異なった日常を生きていくことが求められています。集まって語り合うこと、ともに食事をする事、大学においても、対面で授業を行うこと、ゼミで議論を交わすこと、海外へフィールドワークに出かけることなど、今まで普通にできていたことがことごとく否定されています。その結果、人間という社会的な生き物にとっては、致命的とも思える制約の中に置かれています。しかし、この状況は日常を丁寧に、繊細に見つめなおす機会にもなりました。すると、そこからは拘束される不自由だけがあるのではないこともわかってきます。既成概念にとらわれない新しい変革の好機として、このタイミングをとらえなくてはなりません。

2019年度に完成した新図書館に加えて、来年には、教室研究室棟、学生棟などもすべて竣工します。家政学部・文学部・理学部に加えて、人間社会学部が西生田キャンパスから目白に移転し、女子の総合大学として、多様な連携が可能となり、その真価を発揮できる体制が整います。現在の危機的状況を転機として、建築のみならず、学部・学科再編や生涯教育の一層の充実など、大胆な変革によって、女性ならではの感性を生かした創造性を伸ばし、100年の人生を豊かに生き抜く力をつけるために、またそうした社会を支えるリーダーの育成のために、日本女子大学の学長として、力を尽くしてまいります。(大学HPより抜粋)

受賞歴

- 日本建築学会賞 作品賞 (SHARE yaraicho)
- グッドデザイン賞
- 東京建築士会住宅建築賞 (RIGATO F)



主な著書

- 変わる家族と変わる住まい―“自在家族”のための住まい論 (彰国社) -2002
- 住まいの境界を読む一人・場・建築のフィールドノート (彰国社) -2008
- おひとりハウス (平凡社) -2011
- 多縁社会 (東洋経済新報社) -2015
- シェアハウス図鑑 (彰国社) -2017

建築学会賞 作品賞受賞作品 「SHARE yaraicho」



- 所在地 東京都
- 敷地面積 128.60㎡
- 延床面積 184.27㎡
- 構造 鉄骨造
- 竣工年 2012年
- 掲載誌 新建築2012年8月号 / JA 88号
winter2013 / TOTO通信 2014年新春号
- 受賞
2013年 住まいの環境デザイン・アワード 環境デザイン最優秀賞
2014年 日本建築学会賞（作品）

篠原研究室のプロジェクト



2010年に東京大学院工学部建築学科西出・大月研究室と日本女大学院家政学研究所篠原研究室の大学院生によって形成された団地再生に貢献するための団体。赤羽台団地地域の住民が集まり、語らい、思い出を共有する場をつくる手助けになるような活動を行ってきた。



タイ・ミャンマー・ベトナム・韓国・台湾などのハウジングの研究をしている。主にフィールドワークを行い、住宅の空間構成、自生的空間、共有空間、コミュニティなどの調査研究をしている。



2008年から野村不動産と産学共同で集合住宅におけるコモンスペースと居住者コミュニティの関係について、様々な事例調査・研究を行ってきた。2011年には良好なコミュニティのための共用空間のしかけとして、100のデザイン手法を開発し、グッドデザイン賞を受賞した。



鋸南プロジェクトは、2013年、千葉県鋸南町において第2の廃校活用プロジェクトとして始まった。早稲田、法政、工学院、日大と篠原研究室の5大学共同で行っている。廃小学校を、産直市場、宿泊施設の付随した道の駅として生まれ変わらせ、人口減少、高齢化の進む鋸南町の活性化の中心としてや、観光客の町への玄関口として機能する。2015年度には同町内で温浴施設の改修も手がけ、町全体で人や作物の活発な流動が起こるよう、活動している。

その他、多数のプロジェクトが進行中
篠原研究室の情報は下記より

<http://mcm-www.jwu.ac.jp/~sinohara/index.html>